



2022年 1月12日
第107号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組 横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申第17号 団体交渉を行う②

「横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について」に関する説明申し入れ

共通第3項 本施策で示された業務の「融合」「兼務・連携」の定義は何か具体的に示すこと。
会社回答 これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を進め、成長意欲・チャレンジを具現化できるフレキシブルな組織で一人ひとりの活躍フィールドを広げていく考えである。

組合	会社
<ul style="list-style-type: none"> 「融合」「兼務」「連携」の定義について示すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 「融合」は一人の社員が集約された複数の業務を担うこと。「兼務」は（営業）統括センター外の業務を担うこと、「連携」は車両センターなどとの業務の協力である。
<ul style="list-style-type: none"> 「融合」について具体的なものは。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活サービスやIT・Suicaもある。すべてできるわけではないが、できる範囲のものをやっていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 「企画業務」のイメージはどの様なものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体との調整やJRE モールの出店、イベント対応などである。事務的なものや予算管理、広報なども想定している。
<ul style="list-style-type: none"> 今回（営業）統括センターとならない現業機関についてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> できる限りフィールドを広げていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 統括センター間における兼務・連携についての考え方は。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携は大いにあることだが兼務は考えていない。

共通第4項 本施策に含まれない現業機関について「融合」「兼務・連携」の考え方を示すこと。また、今後のスケジュールについて示すこと。
会社回答 これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業分野を超えた業務の融合や、兼務・連携はこれまで以上に進めて行く考えである。

組合	会社
<ul style="list-style-type: none"> 今後提案された3か所以外増えていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 広げていきたい考えはあるが、現実もある。 兼務、連携は早めていく事はできる。

共通第5項 支社や地区センターの役割はどの様に変化するのか具体的に示すこと。
会社回答 これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業の分野を超えた業務を行うこととなる。

組合	会社
<ul style="list-style-type: none"> 地区センターはどの様に変化していくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には地区センターを解消するが、移行中は地区が残り、各（営業）統括センターのエリアを見ていく。
<ul style="list-style-type: none"> 湘南相模統括センターは3地区に跨っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題は認識しており、地区割りも検討していく。
<ul style="list-style-type: none"> 地区主催の会議等はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> （営業）統括センターになっていく。
<ul style="list-style-type: none"> 各技術センター、車両センターは蚊帳の外に感じる。これまでの地域に根差してきたイベントや、人材育成面の人間関係はどうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属してきた地域とのつながりは大事なものだ。問題点は認識している。

③に続く